

春日井写真同好会 第123回例会記録

平成21年3月10日10:00~14:00
名古屋市農業センター

参加者

小林 長谷川
福田 間木
村田 吉田
6名



しだれ梅を撮る

久しぶりの撮影会で、名古屋市農業センターに向かったものの、情報によると暖冬で10日前が満開と報じられ、殆ど期待せずに歩く。だが、思いに反して週日だというのに車の列。仕事が無くなったんだろうかと変に気を回す。園内の道路を見れば確かに散った花びらが侘びしくかたまっている。

しかし、期待はずれの???満開状態。思い思いに撮ったみなさんのカメラにどれだけの収穫があったのか、ご披露を期待したいと思います。

12品種700本のしだれ梅があると言われても、その差が判るはずもなく無意識にシャッターを切っただけ……。

何はともあれ、次回の例会を楽しみにします。



初っばなに修行僧の姿が目に入り、何故かホッとした感じになる。無視したこの方に代わってコインを報酬させて貰う。…と、途端に元気が出て、見境なくシャッターを切り続ける。

農業センター内しだれ梅 品種紹介(全12品種)



近ごろのコンクールは



ネイチャー部門 グランプリ
Nature Photo Category 2008年受賞者作品
[波羅] 2枚組 小原 功嗣

エプソンが開催した2008年度のコンクールの結果が発表されました。その主なモノを紹介させていただきます。 **グランプリ賞**



ヒューマンライフ部門 グランプリ
Human Life Photo Category 2008年受賞者作品
[花婿ルンルン] 麻川 尚良
カラーをモノクロに変換



エントリー部門 グランプリ
Entry Photo Category 2008年受賞者作品
[渡部兄弟の夏2008]
渡部 朱美

左と中央がプロのモノで、中央のモノは写真連盟の関西支部長とか。

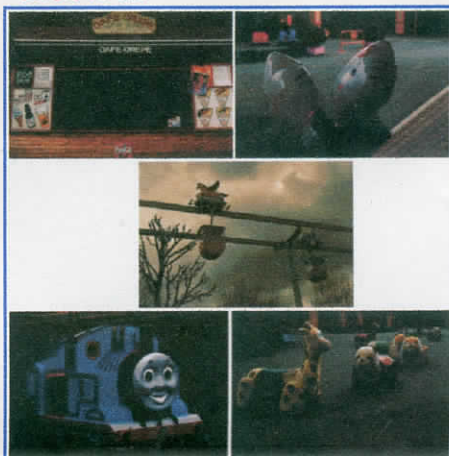
この3作がネイチャー部門・ヒューマンライフ部門・エントリー部門のそれぞれのグランプリ作品ということですが、ド素人にはその価値が判らない。

ネイチャー部門とヒューマンライフ部門の準グランプリ受賞作品



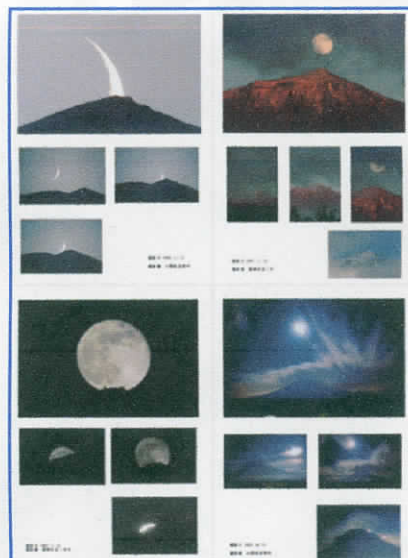
ネイチャー部門 準グランプリ
Nature Photo Category 2008年受賞者作品
[flowers] 江川 渡子

左右、いずれもアマチュアの作品のようです。先のグランプリの2作と同様に組写真になっています。



ヒューマンライフ部門 準グランプリ
Human Life Photo Category 2008年受賞者作品
[無人の公園]
宮下 寿彦

ネイチャー部門とヒューマンライフ部門の特選2作



ネイチャー部門 特選
Nature Photo Category 2008年受賞者作品
[富士山麓の感動]
関根 元治

ネイチャー部門の特選も組写真だが、組写真を4つ組み合わせたW組合わせ写真ということになる。

右のヒューマンライフ部門の特選作は、一枚物であるが明らかに合成写真。車のウインドウ周辺の状態から見て、子供達の顔がこんなに明確な輪郭で写るモノではなく、合成ということを知る。最近、このように合成したモノやレタッチが明らかなものが見られるようになった。



ヒューマンライフ部門 特選
Human Life Photo Category 2008年受賞者作品
[疾走]
寺田 桂三郎

ネイチャー部門とヒューマンライフ部門の審査員賞2作



[with you]

ネイチャー部門 審査員賞 - 中村征夫賞
Nature Photo Category 2008年受賞者作品
鶴澤 いづみ 組写真

共に組写真であるが、右の組写真の下に台形状のプリントがある。これは組写真にした5枚の写真を「ふみちゃん」と題名をつけてブック状に作り上げたモノの写真です。

このようなモノが他に入選作に複数見られます。

最近、コンクールに応募される写真に、組写真が多くなってきたように思われます。主催者側にすれば、今までのように一枚ずつ並べて展示するには、場所の関係で無理になってきたと思われます。



ヒューマンライフ部門 審査員賞 - 中村征夫賞
Human Life Photo Category 2008年受賞者作品
[ふみちゃん] 組写真
杉本 信二

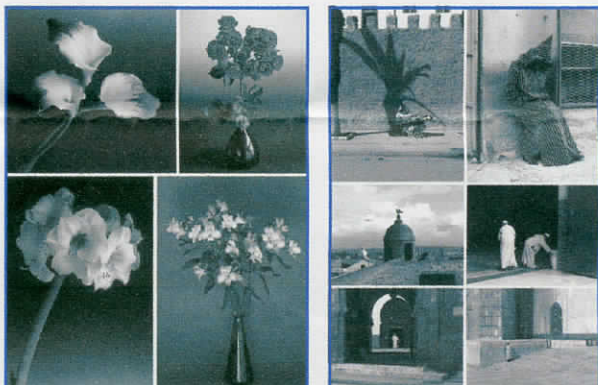
そこで、主催者は応募してきた複数枚の組写真を、一枚に編集して展示するようになったと思われます。中には、ネイチャー部門特選の「富士山麓の感動」のように、応募者自身が始めから組写真を一枚にまとめたモノを作り、更にそれを4枚の組写真に仕立てて応募したと見られるモノもあります。

プロでもないのに、何故、組写真が多くなったのか？

デジカメとプリンターの普及が作り出した現象としか思えないのです。枚数を気にせずパシャパシャ撮る。そして、手軽に安く自分で簡単にプリントできる。多分、この程度の単純な理由ではないかと思われます。

中には、A3の大きさの組写真というのもあって、A3の一枚ずつの組写真とは思いい難く、自分でパソコンかスキャナーを使って、A3一枚に作り付けた組写真ではないかと思われるモノがあります。

右の2枚は共に入選作の一つですが、データの中に、通常の写真では全く関係のないスキャナーの機種名が記されています。明らかに自分で編集した組写真か、あるいはカラープリントをスキャナーを使ってモノクロにしたものか判然としません。いずれにしても過去の写真についての、こうあるべきだという概念には反するモノで、これをどう受け止めるかということが、これからの自分の作品に形づけられるかと思ひます。



(なお、コンクールの作品を審査したメンバーの世代は判りません)

デジタルの流れが、映像・画像の世界(概念)を変えつつあると思ひても良いかなと。

次回、第124回の例会は

次回の例会日は、残念ながらサクラの時期が去った後になります。花撮りにご一緒という訳にはいきませんが、それぞれのご都合に合わせて撮っていただきたいと思ひます。

サクラのようなモノは、花だけを意識して撮ると、それはどこで撮っても同じことといわれますが、十分納得できる話だと思ひます。ちなみに、昨年、会社の前の水道道で満開の櫻を撮りましたが、結構、写真になるとリッパなモノでした。

サクラの背景には、何か説明なり物語が欲しいと思われませんか？

実は、今回の例会が雨で駄目になったときにと、「櫻」を撮るときのデジカメの機能の使い方のテキストを準備していましたが、残念ながら時期的にずれてしまいました。

櫻でなくても他にも通じるテクニックですので、次回の例会時に提供させて戴くように準備しておきます。



村田 電話 ↓

0568-81-8283

と き 平成21年4月14日(火)13:00 ~
ところ 松寿会クラブ室